

## 記述式問題Ⅱ

Ⅱ－1 職業上のばく露限界値等は、職場で危険有害な化学物質にさらされている労働者の職業性疾患又はその他の悪影響を防止するために設定される。このことについて以下の問いに答えよ。

- (1) 管理濃度と許容濃度の違いを述べよ。
- (2) 各国の職業上のばく露限界値等に関する用語等について、次の①から⑥の中から3つを選択しそれぞれどのようなものか知るところを述べよ。
  - ①米国産業衛生専門家会議 (ACGIH) の TLV
  - ②ドイツの MAK (最大職場濃度)
  - ③米国の PEL (許容ばく露限度)
  - ④米国の REL (勧告ばく露限界)
  - ⑤EU の SCOEL
  - ⑥急性曝露ガイドラインレベル (AEGL)

Ⅱ－2 以下の機器分析法から1つを選び、原理、主な用途、長所、短所等について記述せよ。

- ・ガスクロマトグラフ法 (GC)
- ・誘導結合プラズマ分析法 (ICP)
- ・フーリエ変換赤外線分光光度法 (FT-IR)

Ⅱ－3 優良試験所基準 (GLP) 制度について以下の問いに答えよ。

- (1) 優良試験所基準 (GLP) 制度の概要を説明せよ。
- (2) GLP 制度に対するあなたの考え (意義・利点・欠点 等) を述べよ。

Ⅱ－4 1984年にインドで発生した「ボパール事件」の概要を説明せよ。また、この事件について考えられる原因と、得られた教訓について記述せよ。

Ⅱ－5 以下の発がん性を有する、若しくはその疑いのある物質から1物質を選び、各設問に答えよ。

- ・ベンゼン
- ・アスベスト(石綿)
- ・1,2-ジクロロプロパン
- ・オルト-トルイジン

- (1) この物質が原因で起きた代表的な労働災害の概要、社会への影響、法改正・整備や政策への影響等について記述せよ。
- (2) この物質による労働者のリスク低減を図る対策を提案せよ。